

第5回 Clinical AI 外部評価委員会 講評

2025 年 7 月 14 日(月)に Clinical AI 外部評価委員会を開催し、第 5 回外部評価委員会を開催した 2024 年 6 月から 2025 年 3 月までの Clinical AI の取組状況についてレビューを行った。

この高度人材育成プロジェクトは医療系大学院博士課程に設置され、正規課程学生とインテンシブコース生を対象としたものであり、これら学生がこのプロジェクトでの就学後に「Global×Local な医療課題解決を目指した最先端 AI 研究開発」を高いレベルで実践できるようになることを大きな目的としている。そのため、プロジェクトの真の成果を判断するためには、本課程に入学した者がどのように医療現場で AI を活用し活躍しているかをレビューすることが必要であるが、それに至るプロセス等を評価することも、同じく重要と考えられる。

従って、今回の外部評価委員会においては、各大学における受講生の量的状況、教育実施状況、個別の取組み、指導体制、第 4 回外部評価委員会での指摘事項への対応、今後の事業の展望についてレビューを実施した。

以下、各委員からの意見である。

○プロジェクトの進捗について：

- ・系統的な取り組みであり、素晴らしい成果だと思った。特に 3 大学合同の取り組みにおいては足並みを揃えて行っており、非常に素晴らしい取り組みだと感じた。

- ・この五年間でたくさん種をまかれ、着実に芽が出てきており、三大学や関係者の皆様の努力には本当に敬意を表したい。また、受講生の数が右肩上がりに増加しており、この分野への関心の高さと必要性を物語っていると思う。加えて、初期の頃、提言した AI リテラシー教育へも積極的に取り組んでいただいております、改めて感謝したい。

- ・今回の人材育成プログラムは、元々医療系の人材と情報系の人材間のコミュニケーションの難しさを解消し、互いに翻訳できるような人材を育成することを目的としていた。これに対して、国内の主要な 3 つの医学系大学が連携し、このプログラムを進めてきたことは非常に大きな意味があったと思う。特にコロナ禍の最盛期に始まったため、対面での機会がほとんどない中でどうなるかと懸念していたが、逆にウェブを活用したネットワーク作りが進み、このプログラムに非常にマッチした形になったと言える。今日の成果を見ても、このような方法で事業を進められるという新たな道筋を示した点で、非常に大きな意味があったと感じている。

○データの収益性や第三者提供について

データの仮名化等を行い、産学連携を行うにあたり、仕組みを回すために第三者提供を含

む収益性の確保を進めていく必要があると考える。そのためには同意取得は必須であり、検討していかなければならない部分のため引き続き体制整備等を行ってほしい。

○社会実装について

・AI の進化のスピードは凄まじく、種をまきながらも同時に社会実装を進めていくべきと感じている。例えば東北や北海道で AI 医療特区などを設けて、法規制などの壁を打ち破るような政策提言を三大学でしてほしい。

・病院の電子カルテ、PACS などに実装できるようなプラットフォームやシステム作りを日本全国で統一していく動きがでてくることを期待する。

○学部学生への教育について

学部学生へ講義や実習に本プログラムの成果をどのように反映していくのかに注目しており、医学部には国内の数学・情報系トップレベルの学生もいるため、彼らをより上手に育てていくことも、この3大学が今後取り組むべき重要な課題だと感じている。

以上を踏まえ、総評としては次のとおり評価する。

- ・プロジェクトの進捗は良好で前回指摘点への対応を含め大きく成果を上げており、高く評価する。特に三大学の足並みのそろった取り組みやウェブを活用したネットワークづくりについて特に素晴らしいと評価する。
- ・データの収益化や第三者提供の仕組みも引き続き検討してほしい。
- ・東北や北海道で AI 医療特区などを設けて、法規制などの壁を打ち破るような政策提言を三大学でしてほしい。
- ・病院の電子カルテ、PACS などに実装できるようなプラットフォームやシステム作りを日本全国で統一していく動きがでてくることを期待する。
- ・学部学生へ講義や実習に本プログラムの成果をどのように反映していくのかに注目しており、医学部には国内の数学・情報系トップレベルの学生もいるため、学部生の教育についても今後三大学で取り組んでほしい。

2025 年 7 月 14 日

Clinical AI 外部評価委員会
委員長 八重樫 伸生